

熱海写真俳句平成30年8月句会

優秀作・大野方葉



百八体海面を揺らす盂蘭盆会

ひゃくはっというなもをゆらすうらぼんえ

京都の「大文字焼き」に近い意味で例年、この地では昔から旧盆明けの八月十六日の夜の行事として多賀湾に沿って壮大な篝火が灯される『松明とぼし』、通称『百八体』。

海への灯籠流しが終わる八時、町内各組の係が一斉に松明に火をつけると「うおー」という歓声が上がり、百八をはるかに超える三百近い煩惱供養の火が湾をぐるりと燃えたぎる。

道路沿いで松明の熱さを感じるもよし、旧長浜海岸や池田港の堤防の突端から海面に映るのを見るもよし。